

国立研究開発法人科学技術振興機構
科学コミュニケーションセンター

科学技術コミュニケーション推進事業先進的科学館連携型
平成 23 年度採択企画
最終ヒアリング結果報告書

1. 企画名 自然と人の共生 ～科学技術からのアプローチ力を育てる～

2. 提案機関 島根県立三瓶自然館 指定管理者 公益財団法人しまね自然と環境財団

3. 企画の概要

国立公園に位置する自然系博物館という立地と特性を活かしつつ、県内の小中高等学校及び博物館や民間施設、また広島等県外の施設と連携し、異なる分野の最先端の知見を取り入れながら、主に以下の3つの手法により事業を推進する。これにより、これからの人間社会にとって必要となる、国民の自然と人とのかかわりを科学的に考える力の醸成を目指す。

- ① 周辺にある豊かな自然の中で一般の方々を対象とし、最先端の科学技術を紹介することにより、自然と科学技術が密接につながっていることを伝える。
- ② 小中高等学校と連携し、先生方を中心に科学コミュニケーション力を育成する。
- ③ 博物館・科学館・高専・大学・企業等と連携し、地域発の最先端技術に目を向けられるよう事業展開する。

4. 最終ヒアリング結果総合所見

計画は達成され、科学館を拠点とした地域ネットワークの定着・継続・発展が期待できる。

年度毎に見直しを図りながら、長期目標、年度目標にほぼ沿った形で事業を推進したことは、目標と計画の妥当性を示すものであり評価できる。サヒメル理科キャラバンカーでは、専門家が授業をすることの有効性が現場で実証でき、教員と学芸員が共同で授業を行う形に見直し事業を展開したことは評価できる。さらに、サヒメル理科ネットを中心に、理科教員と博物館研究員の連携による授業研究が進んだ点も評価できる。「サヒメル科学探検隊」では、過去の参加者（OB、OG）に対して活動が参加者に与えた影響を様々な角度から検証することは有用なデータへつながり評価できる。今後、定期的に追跡調査を行い、とりまとめてほしい。本支援による活動で、県内各施設と幅広く密接な相互協力関係を築くことができた。特に採択4館で連携が深まったことは強みである。これらの館と情報交換

を積極的に進めることにより、最先端の科学技術を伝える可能性をさらに広げる活動に期待したい。

以上